

だれもが
主役になれる

参加無料



きずな音楽祭2025

KIZUNA MUSIC FESTIVAL

— With 令和7年度豊島区 —
がん対策推進講演会

2025.12.21

開場13:00 13:30-17:00

南大塚ホール

定員260名
(うち車いす席4席)

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-36-1

開催概要

きずな音楽祭2025with令和7年度豊島区がん対策推進講演会は、2019年度から豊島区と認定NPO法人がんサポートコミュニティが催してきた「がん体験者が歌う合唱団いきのちからコンサート」や、2020年度からジョイントしてきた「豊島区がん対策推進講演会」をもとに生まれたイベントです。「誰もが主役になれる」をコンセプトに、病気や世代を超えて多くの方々と心を通わせ、絆を深めながら、未来へつなげていく新たな音楽祭として開催いたします。ぜひ会場に足を運んでいただき、音楽の力や人とのつながりの温かさを感じながら、一緒に楽しいひとときを過ごしましょう。

本音楽祭では手話サービスをご利用いただけます

※手話サービスの利用をご希望の方は、12/5(金)までにお申し込みください。

合唱団いきのちから

私たちは心で歌う目で
歌う合唱団

東京都立大学グリークラブ

東京学芸大学附属
竹早中学校合唱部

がん予防

がん予防 — AYA世代に向けて

講師：米田 光宏 | 医師

国立成育医療研究センター
小児がんセンター副センター長

死生学

死を語ろう、より良く生きるために

講師：張 賢徳 | 医師

国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 所長

出演(合唱団・合唱部)

特別講演会(対談)

要申込

特設サイト・お申し込みは下記二次元コードよりアクセス↓



だれもが主役になれる



きずな音楽祭2025
KIZUNA MUSIC FESTIVAL
— With 令和7年度豊島区 —
がん対策推進講演会
豊島区・認定NPO法人がんサポートコミュニティ

きずな音楽祭2025特設サイト公開中!
お申し込みやプログラム内容はこちらから→



<https://csc-japan.org/event/>

本イベントへのお問い合わせ

認定NPO法人がんサポートコミュニティ事務局

☎ 03-6809-1825 ✉ info@csc-japan.org

合唱団・合唱部のご紹介

きずなを歌にのせて ～4つのハーモニー～

※プログラムは上記二次元コードより特設サイトをご覧ください。



認定NPO法人がんサポートコミュニティ
合唱団いきのちから

合唱団いきのちからは、認定NPO法人がんサポートコミュニティのがん患者のための心のケアの一つ、いわゆる“音楽療法”として、仲間と声を合わせて歌うことで、自らの「生命力」を感じ、がんに立ち向かう「心の強さ」を持つことを目指し、2007年に活動をはじめた。2019年からは豊島区と共催して運営している。



東京都立大学
グreekクラブ

東京都立大学グreekクラブは1956年に創設。1976年には金川明裕を常任指揮者（現・音楽監督）に迎え、以来半世紀近く指導を受けてきた。その間、第67回全日本合唱コンクール全国大会金賞や、第14・22回東京男声合唱フェスティバル人気投票1位など、輝かしい成績を収めている。2023年からは相澤直人を常任指揮者に迎え、さらなる発展を目指している。



ゆきわりそうグループ 社会福祉法人地球郷

私たちは心で歌う目で歌う合唱団

“全ての人々よ兄弟になろう”音域の狭い障がいをもつ彼らは、編曲された「第5パート」を自分のものとし、共に歌う合唱団と連帯を深め、ベートーヴェンの第九交響曲「歓喜の歌」その主題に強い共感を覚え、生命の応援歌として1989年の設立以来、歌い続けている。心に響く日本の歌も歌い継いでいる。



東京学芸大学附属
竹早中学校合唱部

東京学芸大学附属竹早中学校合唱部は1974年創部、半世紀以上の歴史を持つ。毎年11月に行われる文化研究発表会「文研」は、生徒が夏休みにまとめた自由研究の発表の場であり、文化部が研究成果を発表する機会。合唱部は毎週月・木曜日に活動し、「文研」でその成果を披露している。

講演会

令和7年度豊島区がん対策推進講演会

開催にあたり

生きるを考える —からだところの対話—

本講演会では、「がん予防」と「死生学」という2つのテーマを軸に、それぞれの専門家、米田光宏先生と張賢徳先生をお招きし、対談形式で深く掘り下げていきます。
聞き手は、がんサポートコミュニティ事務局長の大井賢一です。
今を生きる若い世代にこそ届けたい、からだところに向き合う時間になればと考えております。
ぜひご参加ください。

講演内容

がん予防

がん予防 —AYA世代に向けて—

がんの予防には禁煙、バランスの取れた食生活、適度な運動、飲酒を控える、といった生活習慣の改善が重要です。子宮頸がんの罹患は20～30代といったAYA世代での増加が目立ちます。ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンによる子宮頸がんの予防も有効です。AYA世代に向けたがん予防について対談形式でお話をお聴きします。



米田 光宏 | 医師
Akihiro Yoneda

国立成育医療研究センター 小児がんセンター
副センター長・腫瘍外科診療部長
国立がん研究センター小児腫瘍外科 科長
日本小児血液・がん学会 理事長

死生学

死を語ろう、 より良く生きるために

日本における10～39歳の死因第1位は自殺で、国際的にもG7の中で日本のみです。米国カルフォルニア州ノリス総合がんセンターによると、AYA世代（15～39歳）の男性がん患者における自殺死亡者数が、21年間で3倍に増加したことが報告されています。生命の大切さを基軸に自殺予防や死生学について対談形式でお話をお聴きします。



張 賢徳 | 医師
Yoshinori Cho

国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 所長
日本自殺予防学会 理事長
日本臨床死生学会 副理事長



認定NPO法人 がんサポートコミュニティ

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3丁目10-4
虎ノ門ガーデン214号室

TEL. 03-6809-1825

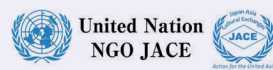
FAX. 03-6809-1826

<https://csc-japan.org/>



がんとひとりで向き合わないために

がんサポートコミュニティは、世界最大規模の専門家による国際的がん患者支援の非営利団体ネットワークCancer Support Communityの日本支部です。がんになってもその人らしく生き、がんとひとりで向き合わない社会をめざし、東京・大阪・千葉・山梨で年間のべ2千人のがん患者とご家族に、私たちのプログラムを通じて心のケアを無料で提供しています。さらに、2022年から第4期がん対策推進基本計画の策定に参画し、がんによって生活を取り乱された人々をサポートする政策を提言しています。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS
CERTIFICATE



国連NGO日亜文化交流協会より、
SDGs活動に真摯に取り組む団体
として認定